

私の授業の進め方：学びの定着を目指して

大庭一郎

図書館情報メディア研究科講師

はじめに

平成14(2002)年10月、筑波大学と図書館情報大学が統合し、図書館情報専門学群と図書館情報メディア研究科が設置されました。そして、平成19(2007)年4月、筑波大学の全学的な学群・学類の改組によって、図書館情報専門学群は、情報学群知識情報・図書館学類になりました。

現在、私は、図書館情報専門学群、情報学群知識情報・図書館学類、図書館情報メディア研究科の授業を担当しています。本稿では、平成18(2006)年度の図書館情報専門学群の授業を中心に記します。

図書館情報専門学群の教育と私の授業

図書館情報専門学群は、前身の図書館情報大学の教育体系を継承・発展させながら、多様な授業科目を展開してきました。図書館情報専門学群までの教育体系の発展過程は、『図書館情報大学史：25年の記録』(2005

年刊行)に詳しく記されています。

この大学史には、石井啓豊教授の論稿「図書館情報学の展望：知識共有の総合科学」が収録されており、図書館情報学が扱ってきた問題、図書館情報学の対象世界の規定、および、今後の展望について、総合的に論じています。この論稿では、図書館情報学の基本的な視点が、「社会における知識の共有を保持するという社会的価値を追求する総合的領域」として整理されています。そして、図書館情報学の対象世界として、「図書館情報学は、情報メディアの集積を社会的知識資源として捉え、その視点から社会における知識共有と、それを実現する情報メディアと社会的仕組みを人間、社会、文化、情報、技術などの多様なアプローチから解明し、設計し、社会に働きかける。」と規定しています。

図書館情報専門学群の教育は、上述の考え方を踏まえながら、整備されました。そ

して、平成19(2007)年4月以降、情報学群知識情報・図書館学類の教育では、現在までの教育体系を踏まえながら、全ての教育内容を再検討し、「知識共有社会と知識技術の創造」を担う多様な人材の育成を目指した教育体系を整備・構築し始めています。

平成18(2006)年度に図書館情報専門学群で私が担当した授業は、「図書館経営論Ⅰ」、「レファレンスサービス論」、「大学図書館論」、「図書館情報管理実習Ⅰ」です。

ここでは、「レファレンスサービス論」の授業について、簡単に紹介します。レファレンスサービス(reference service)とは、何らかの情報や資料を求めている図書館利用者に対して、図書館員が仲介的立場から、求められている情報や資料を提供ないし提示して援助すること、およびそれにかかわる諸業務のことです。今日のレファレンスサービスの萌芽的なものは、1870年代に米国の公共図書館サービスの中で提唱され、その後、大学、企業、学校などの他の図書館でも実施されるようになりました。

レファレンスサービスを実施するには、各種のレファレンス資料が必要になります。レファレンス資料(reference material)とは、特定の情報を求める際に、その一部を参照(reference)して利用するが、表紙から奥付まで全体を通して読む種類のメディアではなく、調査用の利用を想定して編纂された

図書やデータベース等を指します。レファレンス資料には、辞書、百科事典、専門事典、便覧、図鑑、年表、年鑑、地図帳、書誌、目録、索引、抄録、等があります。現在、レファレンス資料は、様々な提供形態(冊子体、オンラインデータベース、パッケージ型電子メディア、インターネット上の情報源、等)で作成されています。そこで、現代の図書館では、様々な提供形態で作成された多種類のレファレンス資料を活用しながら、レファレンスサービスを展開することが求められています。

「レファレンスサービス論」の授業では、レファレンスサービスの目的、構成、方法、各種情報源の利用法、レファレンスサービスに関連した図書館の組織と運営、等について総合的に解説しています。さらに、レファレンス資料を用いた情報や文献の探索方法、各種レファレンス資料の使い分けや評価、等の実践的な演習については、「レファレンスサービス演習」で扱っています。

従来、レファレンスサービスは、主に図書館によって実現されてきました。しかし、情報化社会の進展や情報処理技術の高度化によって、レファレンスサービスの機能は、図書館を含む多様なエージェント(agent)によって実現されるようになってきました。たとえば、オンライン書店の中には、情報処理技術を用いて、顧客にお薦めの本を提

示するレファレンスサービスの機能を提供しているものもあります。「レファレンスサービス論」の授業では、図書館サービスに限定するのではなく、現代社会の様々なエージェントで実現されているレファレンスサービスの機能に注目させながら、講義を進めるようにしています。

また、人類の文明は、文字の発明で知識や情報を大脳以外に蓄え、参照 (reference) し検索できる体系を大脳の外に持つことによって発展してきた、と考えられます。このような見方をすれば、人類の文明の発達には、レファレンス資料の発展史としてとらえることもできます。様々なレファレンス資料を活用・作成できるような知識・技術を持つだけでなく、最新の情報処理技術を駆使して、より便利なレファレンス資料の提供形態を考案できるような人材を養成することは、図書館情報専門学群 (今後の知識情報・図書館学類) にとって重要です。

私の授業の進め方

私が担当する授業では、以下の10項目を充たすように心がけています。

①授業前に教室の整備をする。

教室には、授業開始前に早めに出向き、教室内の音響設備や視聴覚機器が使えるかどうか確認します。教室の机や椅子が乱れていると、学生の学びに対する意識もルー

ズになりがちです。そこで、座席が乱雑になっている時は、整頓することもあります。

②授業時間をフルに活用する。

図書館情報大学では、平成7(1995)年度から、多くの授業科目で学期完結型の開講形態が導入されました。図書館情報専門学群 (知識情報・図書館学類) の場合も、75分×2コマ連続×11週という学期完結型の授業が大多数を占めています。1学期間に必要事項を網羅的に教育できるように、授業開始と終了の時刻を厳守し、150分間、密度の濃い授業をするようにしています。

③第1回目の授業を重視する。

受講生の緊張感を維持した授業を展開するには、第1回目の授業に臨む教員の姿勢が重要であると思います。そこで、シラバスには、授業概要、学習・教育目標、授業計画、成績評価の方法、教材・教科書・参考書等、履修要件、等を詳細に記します。そして、受講希望者には、教科書を購入した上で、第1回目の授業に必ず出席することを求めています。学生には、2コマ連続の授業形態の関係で、毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になるので、全て出席する覚悟で受講することを、強調して説明しています。

④教室の前方の座席を利用する。

受講者数に対して教室の収容可能人数が大きすぎる場合は、1列目から○列目まで

の座席を利用するように指示し、後方座席に学生が集中することを避けています。

⑤毎回、授業用の配布資料を作成する。

授業では教科書を指定していますが、図書館情報学の領域は、社会環境の変化や情報処理技術の進展にともなって、新しい知識や情報、参考資料等を随時補足する必要が生じます。そこで、A3判両面コピーで複数枚の配布資料を作り、それを半折りにして、毎回、パンフレット形式の配布資料を配ります。資料には、授業内容を補完する雑誌論文等の縮小コピーも収録し、復習時に、文献を読むことを課しています。

⑥授業の始めに前回の復習をする。

授業開始直後、ランダムに10人前後の学生を指名し、前回の授業に関する質問に回答させます。質問は、基本用語や基本概念の説明、教科書や配布資料中の図表類の説明を求めるものです。これによって、学生は、前回の学習内容の復習をすると同時に、緊張感を持って授業に臨むようになります。

⑦必要に応じて、視聴覚教材を活用する。

授業の際は、必要に応じて、テレビ番組等の映像資料やラジオ番組等の音声資料を用いて、授業内容に対する活字以外のイメージを広げられるような配慮をしています。

⑧休み時間は、教室にいて学生に対応する。

15分の休み時間は、研究室に戻らず、教室内で出席や提出物等の処理を行い、学生

からの質問を受付けるようにしています。

⑨授業評価の結果を大切にする。

図書館情報大学では、平成10(1998)年度の2学期から、全ての授業科目について学生による授業評価を行い、その結果を学生に公開しました。図書館情報専門学群と知識情報・図書館学類では、学期末に授業評価(質問18項目と自由回答欄)を実施しています。私は、授業開始1か月目に授業評価を行い、その結果を踏まえて授業を進め、学期末の授業評価を実施しています。

⑩成績評価は総合的な観点で行う。

成績評価は、出席状況、課題レポート(複数回)、授業開始時の質問回答、学期末試験(持込み不可)によって、総合的に判定しています。学期末試験は、授業内容の総合的な理解を判定できるように、少し長めの論述問題も出題します。知識情報・図書館学類では、学生の総合的な学習到達度の評価としてGPA(Grade Point Average)を導入し、主専攻選択時にGPAを活用するので、厳密な成績評価に努めたいと考えています。

おわりに

新しい情報学群知識情報・図書館学類では、前身校の教育の長所を継承・発展させながら、知識共有社会と知識技術の創造を担う人材の育成を目指したいと思います。
(おおば いちろう/図書館情報学)